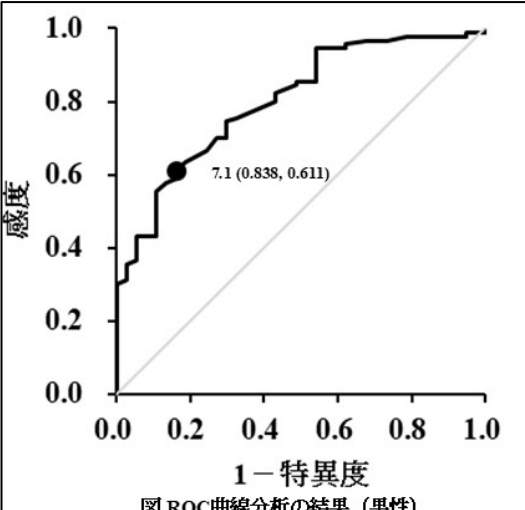


研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研究テーマ	透析患者の予後改善に向けて：いくつかの栄養評価指標の透析患者での有用性の検討（透析導入疾患別の検討も含めて）				
研究組織	代 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	保坂 利男
	研究協力者	所属・職名	宮地医院・医師	氏名	宮地 武彦
		所属・職名	宮地医院・管理栄養士	氏名	樋川 千子
		所属・職名	宮地医院・技師	氏名	加藤 純
		所属・職名	食品栄養科学部・助教	氏名	榛葉 有希
		所属・職名	食品栄養科学部 博士 1 年	氏名	小花 勇一朗
		所属・職名	食品栄養科学部・4 年生	氏名	高橋 千夏
	発 表 者	所属・職名	食品栄養科学部・教授	氏名	保坂 利男

講演題目	
腸腰筋断面積指数[PMI (Psoas Muscle Index)]のGNRI (geriatric nutritional risk index: HD 患者向けに作成された栄養指標) から算出したカットオフ値は、新規の血液透析患者の栄養指標となる。	
研究の目的、成果及び今後の展望	
【目的】サルコペニアは骨格筋量および筋力の低下を特徴とし、炎症を伴う疾患や生命予後と大きく関連している。血液透析（HD）患者では、慢性炎症や低栄養、身体活動量の低下などによりサルコペニアが高頻度で認められる。近年、新たなサルコペニア指標として、腹部 CT（Computed Axial Tomography）を用いた <u>PMI (Psoas Muscle Index)</u> が日本肝臓学会で採択された。しかし、HD 患者における PMI に関する報告は限られている。そこで本研究では、HD 患者を対象として、サルコペニア指標である PMI の最適なカットオフ値を設定し、HD 患者における PMI の栄養指標としての有用性を検討することを目的とした。	 図 ROC 曲線分析の結果（男性）
【成果】PMI は男女ともに栄養リスク指標である GNRI と有意な正の相関を示し、さらに独立した関連がみられた。男性において、ROC 曲線分析で得られた <u>カットオフ値 7.1 cm²/m²(図)</u> に基づく群間比較では、アルブミンや CPK、リンパ球数など栄養状態および筋肉量を反映する指標で有意差がみられた。	
【展望】HD 患者において、PMI は男女ともに GNRI と有意な関連を示し、<u>PMI は HD 患者の栄養リスク指標として有用である可能性</u>が示唆された。PMI は CT 画像を用いて算出可能であり、HD 患者においても臨床の実用性が高い。また、本研究で算出したカットオフ値のカットオフ値に基づく群間比較において、PMI 高値群と低値群で栄養指標に有意な群間差が認められ新規の HD 患者の栄養指標となることが判明した。これらの結果から、本研究のカットオフ値を用いることで、HD 患者でこれまでに見逃されていた栄養不良やサルコペニアをより正確に抽出できる可能性が示唆された。	